



山形県青年の家より隔月発行でお知らせしています



R2. 10・11月号

発行日 令和2年12月1日
発行 山形県青年の家
〒994-0032
天童市小路一丁目7-8
TEL 023(654)4545
FAX 023(652)2007

新型コロナウイルスに打ち克て！

青少年ボランティア活動の灯りをともし続けよう！！

若者自立支援事業「わいわいカフェ」

■ 10月14日(水)に青少年を対象にした「わいわいカフェ」を行いました。3つの関係団体から合わせて18名の皆さんが参加し、近年注目を集めている※ポッチャを体験しました。ポッチャはユニバーサルスポーツであるため、老若男女問わず誰でもプレーすることができます。まず始めに、3名ずつ6つのチームに分かれて、実際にポッチャで使用するボールに触れながら、的に見立てた紙の上にボールを乗せるところから練習を開始しました。参加した皆さんは飲み込みも早く、重量感があって柔らかいボールの扱いに慣れ、狙ったところにボールを投げ入れたり、転がしたりすることができるようになっていました。練習の後は、チームごとに対抗戦を行い、3名で相談しながらジャックボールに持ち球をどうやって近づけるのか、また、相手の持ち球をどのように弾き出すのか、頭脳戦も繰り広げながら実戦を楽しんでいました。最後になりますが、県指導者協議会の安孫子豊氏、高橋静雄氏の両氏には、用具の提供、指導・審判で大変お世話になりました。ありがとうございました。



※ポッチャ ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりしていかに近づけるかを競う競技。

青年の家体験講座②「地域の環境と文化について考える」

■ 当初5月に実施予定であった青年の家体験講座②が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため10月24日(土)に延期され、「考えよう、体験しよう SDGsとスポGOMI！」と題して、※SDGsについての学習とスポーツごみ拾いを行いました。創学館高校と山形城北高校の2校から合わせて30名の高校生が参加してくれました！初めに、美しい山形・最上川フォーラムの安部明子さんから、「海の豊かさを守ろう」というテーマで講演をしていただきました。プラスチックごみが朽ちてマイクロプラスチックとなり、そのマイクロプラスチックが川や海を汚染している現実を目の当たりにしました。そして、砂の中に埋もれたマイクロプラスチックを箸で拾い上げるワークショップを行い、プラスチックを取り除く大変さを体験しました。その後、舞鶴山に舞台を移してスポーツごみ拾いを行いました。小雨舞う肌寒い天気の中、5~6人1組の総勢6チームが舞鶴山に繰り出し、天童公園に向かって歩を進めながら沿道や斜面に落ちているゴミを懸命に拾いました。苦労しながら拾ったゴミの総重量で順位を競い、1位は創学館高校の5班、2・3位は山形城北高校の1・4班という結果になりました。共催いただいた美しい山形・最上川フォーラムさん、運営にご協力いただいた山形大学ボランティアサークルJCCの皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。



※SDGs 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(Leave no one behind)」ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなものである。(外務省HPより)

家庭教育支援研修会②「食育学習とスラックライン体験」



■ 11月28日(土)に本所主催事業である家庭教育支援研修会②「食育学習とスラックライン体験」を開催しました。参加申込が多数あったため、今回は抽選を行ったうえで、定員の20名(天童市・山形市・東根市から小学校低学年の親子10組)での開講となりました。なお、感染拡大防止のため、着席間隔に身体的距離を設け、手指消毒の徹底や器具の配置が密にならないようにするなど、対策を講じた上で行いました。

前半は講師の井上祐先生〔山形県立東桜学館高等学校保健体育教諭・(社)日本スラックライン連盟C級インストラクター〕から、「食を通して心と体を健やかに育む」と題した講義をしていただきました。コミュニケーションスキルをアップすることも絡めながら、好きな食べ物・嫌いな食べ物について親子間で会話をしました。さらに、身体を動かすうえで欠かすことのできない食の「量」や「時間帯」などの説明を受けたうえで、子どもたちが今晚食べたいものを、会場の後部に置いた写真の中から選び出しました。子どもたちが選んだお肉・揚げ物中心のメニューに、今度は保護者が子どもに食べさせたいものを選び、食べ物の色味の違いから身体の成長に必要な栄養素を学びました。

後半も続けて井上先生から「スラックライン体験」を指導していただきました。身体のウォーミングアップに始まり、ライン上での基本技能を体験しました。子どもの適応能力は非常に高いものがあり、すぐにライン上で立ったり、歩いたりすることができていました。「フットプラント」といわれるトリックを成功させる子どももいました。体験活動を通して親子の“絆”が深まりました。



TAT(Team オールてんどう)プロジェクト 始動



■ 天童市内の青少年ボランティア推進事業を発展させるため、2016年度から天童市内の教育機関(青年の家、県教育センター、天童高校、創学館高校)と天童市教育委員会(生涯学習課)との意見交換会を行ってきました。そして、その会を受けて天童市内の青少年ボランティアの育成・支援を主目的とするプロジェクトが発足しました。今年度は1回目の顔合わせが11月25日(水)にあり、天童高校からは3名、創学館高校から7名の生徒が参加しました。まず、山形大学ボランティアサークルJCCの大橋功己さん、新川竜矢さんから、ボランティア活動事例発表を行っていただいた後、12月後半に行う「X'masに保育園とリモートで交流!」について、グループに分かれてワークショップを行いました。保育園児を対象にしてどのような企画をするのか、各グループで活発な意見が交わされ、「なぞなぞ」や「クイズ」、「科学実験」など面白そうな企画を出し合っていました。本番ではどのような企画が登場するか、乞うご期待ですね。



あの頃の“青年”は?

■ 10年毎に本所の所報を振り返り、当時の様子を思いを馳せてみたいと思います。今回は30年前の1990(平成2)年の所報(青年の家所報NO.140-141)を振り返ります。



① 「現代青年教育講座」スタート

20代の若者20名が参加し、“青春のトレンドイ”を追求しました。(株)天童ワインの社長からレクチャーを受け、実際にワインを嗜みました。ワインの味から“トレンドイ”を深めることができたのか…。

② 舗装も新たにくまもスイスイ

今から30年前に本所正面の駐車スペースが舗装されました。それまでは砂利敷きでした。平成の時代に入ってから舗装されたのですね。

10・11月の利用団体

【宿泊利用】

- ・けやきJVC(バレーボール)

【日帰り利用】

- ・Kバド(バドミントン)
- ・TOP(バドミントン)
- ・天童高校バドミントン部
- ・KBC(バドミントン)
- ・S・フリー(バドミントン)
- ・日大山形高校女子バスケットボール部
- ・TGBスポーツ少年団(リフトテニス)
- ・西崎女子ソフトテニス

- ・(株)山形ビルサービス
- ・山形県高産連総合専門部「山形県総合学科高等学校発表交流会」
- ・山形県教育委員会「高校生英語ディベート大会」
- ・山形県青年の家「わいわいカフェ」「SDGsとスポGOMI!」「TATプロジェクト」「食育学習とスラックライン体験」



今後の主催事業

- 【12月】
- 12/12(土)・13(日) Y Yボランティアの集い
- 【1月】
- 1/23(土) 青年の家体験講座③「地域の文化と食」
申込締切:1/8(金)
- 1/30(土)・31(日) 地域をつくるリーダーセミナー(内陸)・(庄内)
申込締切:1/18(月)